

選考委員賞

森や木に親しもう「自然と都市の共生」

青山中学校 門倉 萌仁香

私が住んでいる港区では、とても多くの緑に親しむことができる。青山墓地には桜が群生し、通学している青山中学校周辺は東宮御所の広大な緑と神宮外苑の並木が緑を連ねている。春夏秋冬、その姿を色鮮やかに変化させ、地域の住人も訪れる人々も楽しませてくれる。この緑は私にとってもなくてはならない存在だ。

現在の港区の緑被率は二十・五〇％という。平成三十二年には二十四％を目標に、そして二十一世紀半ばには実に三十％。現在よりプラス九・五％の拡大に挑戦するという。今、港区は大都市に習うべく超高層マンションやビルが建ち並んでいる。

ではどこに緑を増やすのだろうか？高層ビルなどの建設をする時、港区では必ずある一定の割合で緑を共生させる決まりがある。しかし、それだけでは足りない。既存のビル屋上の緑化、壁面にも緑を増やしていくというのだ。この取り組みが具体的にかつ計画的に進められていくならば、目標の緑被率に達することになると信じていたい。しかし、それだけではない。

東日本大震災後、この港区の湾岸地域は液状化現象の被害に遭った。私の住んでいる青山地域には大きな被害はなかったものの、私達に大きな課題をつきつけた。それは安心して生活できる地域作りとそれにはかせない森や木を環境に配して育てることだ。

私達は災害に遭う度、傷ついた土地を修復し、あらたな教訓を練り込んできた。しかし、最も大切なことは、その教訓を次の世代へとつなげていくことだろう。その為に早くからの環境教育で一人ひとりの意識に「森と木と共生する都市」のイメージを持つことを望みたい。具体的には、ピオトープの作成や各地域、公園、街路樹の整備に関わる仕事に、何らかワークショップで参加するのにもよいかと思う。そして、学んだ子供達が、次の世代の子供達に伝え、一緒に活動する。そうした繰り返しで未来の緑を育てると思うのだ。

港区の標語に「いのちはぐくむ みどりと水 かがやく まち みなと」とある。

私はこの港区が大好きだ。そしてこの言葉通りの街づくりをしていくのは、次世代の私達だと思う。